新任教員研修プログラム対象

学生さんにもおすすめ！

＼新任の先生のご研究をのぞいてみませんか／

人間科学セミナー

一般
教職員・学生
どなたもご参加いただけます。

2026.
7.9（木）
13:30-15:10

新任教員が研究内容や専門知を紹介するセミナーです。分野を越えた知の交流を通じて連携を促進し、人間科学における分野横断的な視点と「社学共創」の重要性を学ぶ機会を提供します。

人間科学研究科 北館2F ラーニングコモンズ

公認心理師プログラム運営室

藪田拓哉 先生

13:30～（講演+質疑応答）

社会学・人間学系
基礎人間科学講座

飯塚理恵 先生

14:00～（講演+質疑応答）

社会学・人間学系
社会環境学講座

村上あかね 先生

14:30～（講演+討論）
・指定討論者：権藤恭之 先生（行動学系）
・討論司会：山田陽子 先生（社会学・人間学系）

お申込みは
こちらから

締切7月8日

新任教員研修プログラム（社学連携能力開発プログラム）としてもご参加いただけます。
左のQRコード、または(https://forms.cloud.microsoft/r/sQf0hKChn3)よりご登録ください。

当日のお申込みは、受付にてご記名ください。

大阪大学大学院人間科学研究科
附属 未来共創センター

mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

藪田 拓哉 先生　／公認心理師プログラム運営室

アニメがもたらす「こころ」の癒し

みなさん、アニメは好きですか。「好きでたくさん見ている！」という方もいれば、「家族や友人が夢中になっている」という方もいらっしゃるでしょう。現在はあまり視聴していない方でも、子どもの頃にアニメを楽しんだ経験があるのではないでしょうか。では、アニメを視聴して「癒された」ことはありますか。

本講演では、臨床心理学や心の健康の観点から、アニメを享受する人々の「こころ」について考えていきます。「アニメ×心理学研究？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし近年、心理学の研究対象としてアニメにも注目が集まりつつあります。まず、アニメの心理学研究の動向を概観したうえで、アニメがもたらすポジティブな影響に関する基礎研究、とりわけ「癒し」に焦点を当てたプロセス研究を紹介します。さらに、アニメの心理学研究がもつ発展可能性や意義について、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

アニメに興味がある方はもちろん、そうでない方も、楽しみながらアニメ×心理学の世界に触れてみませんか。

飯塚 理恵 先生　／社会学・人間学系 基礎人間科学講座

科学技術の哲学――当事者の経験との架橋

新規科学技術がもたらす倫理的・法的・社会的課題を研究する分野はELSIと呼ばれます。また、社会的価値を重視した研究開発を推進する考え方は、RRI（責任ある研究・イノベーション）と呼ばれます。ELSIやRRIは科学技術・イノベーション基本計画でも言及されており、近年注目されている研究領域です。では、科学研究には実際に誰の声が反映されるべきなのでしょうか。哲学や倫理学を専門に研究してきたわたしは、2022年にがんに罹患し、遺伝医療や生命倫理の問題を当事者として身近に考えざるをえない立場となりました。近年では、患者や市民の声を研究や医療に反映させるPPI（患者・市民参画）も推進されています。わたしは近年、当事者の経験を科学研究に反映することの重要性と、その難しさについて、哲学・倫理学の観点から研究しています。

村上 あかね 先生　／社会学・人間学系 社会環境学講座

「マイホーム神話」再考
――「住む・棲む」ことから考える社会とその未来

戦前の大阪では借家に住む人が多数を占めていましたが、戦後になると持家に住む人が急速に増加しました。現代ではマイホームが家族形成と結びついて理解され、「マイホームを持てそうにないなら結婚しない」という意識すらみられるようになっています。このような歴史的転換はいかにして生じたのでしょうか。本報告では、戦後の都市化の進展や郊外住宅地の開発、近代家族の普及、さらにはグローバル化や新自由主義のもとでの住宅政策の展開など、歴史的・社会経済的背景のなかでこの問題を捉え直します。あわせて、後期近代における人びとの居住選択やライフコースの変容にも目を向けます。報告者はこれまでハウジングというレンズを通して量的・質的調査を組み合わせながら、社会に内在する格差や不平等の構造を明らかにしてきました。当日はこれらの知見を踏まえ、超高齢社会における持家の役割を手がかりに「住む・棲む」ことの将来像を展望します。

大阪大学大学院人間科学研究科
附属 未来共創センター

mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp